

平成31年2月定例教育委員会会議録

1 日 時

平成31年2月21日（木）午前10時00分から午後0時00分まで

2 場 所

唐津市役所大手口別館6階会議室

3 出席者

(1) 教育長

栗原宣康

(2) 教育委員

富永祐司、森田淳、坂本恭子、宮崎美和

(3) 事務局

教育部長 保利守男、教育副部長 中尾修二、教育副部長 栗原達也、学校教育課長 佐々木講吉、学校支援課長 櫻井実規子、東部学校給食センター係長 青木繁明、近代図書館長 船岡広子、幼稚園園長 加茂律子、浜玉市民センター総務教育課長 内山茂昭、厳木市民センター総務教育課長 草場忠治、相知市民センター総務教育課長 黒木寿昭、北波多市民センター総務教育課長 江副徳博、肥前市民センター総務教育課長 草場靖親、鎮西市民センター総務教育課長 北村武則、呼子市民センター総務教育課長 野上安国、七山市民センター総務教育課長 鬼木和俊、教育総務課係長 神田仁、教育企画室係長 岡田和幸、教育総務課主査 古賀幹子

4 議 題

(1) 議案

議案第1号 平成31年度唐津市教育の基本方針の策定について

【原案どおり可決】

議案第2号 唐津市教育委員会教育長の給与改定に係る意見について

(2) 協議事項

- ① 唐津幼稚園のあり方について
- ② 呼子公民館解体跡地利用計画に伴う管理替えについて

(3) 報告事項

① 教育長報告

② 各課報告事項

- ・消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例について
- ・佐賀県市町教育委員会連合会役員組織の改変について
- ・唐津市所蔵品展「秋玲二さん、水辺のさんぽ」について
- ・共催及び後援について

③ その他

- ・教育委員会行事予定

【定例会】

午前10時00分 開会を告げる。

栗原教育長は、本日の会議録署名委員として坂本委員を指名した。

栗原教育長は、前回の定例会の会議録について会議に諮り、委員会はこれを承認した。

○教育長（栗原宣康君）

おそろいですので、2月の定例教育委員会を始めたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは、議案第1号について、教育企画室から説明をお願いします。

○教育副部長（栗原達也君）

教育企画室から説明させていただきます。

1ページをお願いいたします。

議案第1号平成31年度唐津市教育の基本方針の策定についてでございます。

提案理由といたしましては、学校、家庭及び地域の様々な教育的課題に対応し、活力ある唐津市への発展を推進するため、平成31年度唐津市教育の基本方針を策定するものでございます。

3ページをお願いいたします。

3ページにつきましては、唐津市教育の基本方針を述べさせていただいているところでございます。

次、4ページにつきましては、唐津市教育の基本方針の内容を詳しく書いているところでございます。

5ページから8ページにかけては、平成31年度の主要施策を書いております。

この内容につきましては、先月の定例教育委員会で教育委員の皆様にも慎重に御審議をいただいたところでございます。

内容といたしましては、先月と一切変更はございませんので、今回も御審議の上、承認していただきますようお願いいたします。

○教育長（栗原宣康君）

平成31年度の唐津市教育の基本方針について提案いただきました。

大きな変更はなかったと思っておりますけれども、教育委員の皆様方から何か質問や御意見がありましたらお願いいたします。

○教育委員（富永祐司君）

1つ質問いいですか。

3ページの基本目標4ですが、この4は何でしたかね。

○教育副部長（栗原達也君）

これは総合計画の中に、1、2、3と段落ごとに目標がありまして、教育委員会に関するところが目標4のところに書いてありますので、そこだけを抜粋しているところでございます。

○教育委員（富永祐司君）

分かりました。

○教育長（栗原宣康君）

このとおりに進めさせていただいてよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

それでは、議案第1号については御承認いただきました。

議案第2号について、教育総務課からお願いします。

○教育副部長（栗原達也君）

教育総務課です。議案第2号唐津市教育委員会教育長の給与改定に係る意見についてということでございます。

提案理由といたしましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、議会の議決を経るべき事件の議案について市長から意見を求められたためということでございます。

10ページをお願いいたします。

10ページにつきましては、市長からの意見聴取についての依頼文書をつけさせていただいております。

11ページをお願いいたします。

ここで条例案の概要を掲げさせていただいております。

条例案の題名は、唐津市職員給与条例等の一部を改正する条例です。改正理

由は、人事院勧告等に伴い改正するものでございます。

条例案の内容については、（１）唐津市職員給与条例の一部改正ということで、当教育委員会に関するところといたしましては、１３ページの枠で囲んでいる部分のアンダーラインを引いているところでございまして、唐津市教育委員会教育長の給与等に関する条例第９条及び第１０条の一部改正というところでございます。

内容につきましては、下段の表がでございます。

教育長の現行の期末手当でございますけれども、６月が１．５７５、１２月が１．７２５、計３．３０月分です。これは月分ということでございます。

今回の改正によりまして、平成３０年度につきましては、改正後、６月が１．５７５、１２月が１．７７５、計３．３５月ということで、０．０５月分増えるということになっております。

また、段階措置といたしまして、平成３１年度以降につきましては、６月が１．６７５、１２月が１．６７５、計３．３５月ということで、これは平成３０年度の改正と変わりませんけれども、６月と１２月が平準化をされているというところでございます。

適用につきましては、中段の平成３０年度の改正後が平成３０年１２月１日からの適用です。また、下段の平成３０年度以降につきましては、平成３１年４月１日適用となっているところでございます。

１５ページをお願いいたします。

１５ページにつきましては、議案の案をここに上げさせていただいているところでございます。

１６ページから２１ページでございますけれども、条例案を出させていただいております。

１８ページ中の四角で囲んでいるところは、今回関連するところを表記させていただいております。

２２ページ、２３ページには新旧対照表をつけさせていただいております。

２４ページをお願いいたします。

２４ページは、今回依頼があった件につきましての回答文書の案となっております。

ります。このような文書で回答したいということで考えているところでございます。

説明につきましては以上でございます。

○教育長（栗原宣康君）

ありがとうございました。

議案第2号について、何か質問や御意見がございましたらお願いします。

○教育委員（森田 淳君）

異議ございません。

○教育長（栗原宣康君）

0.05%増えるということ、6月、12月の率バランスが変わるということの2つですかね。

○教育副部長（栗原達也君）

平成30年度の12月からは0.05%増えて、平成31年度以降は、合計は一緒ですけれども、6月と12月が同じ月数で平準化をされるという改正です。

○教育長（栗原宣康君）

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

ありがとうございました。

それでは、2号議案を御承認いただきまして、議案については終了いたします。

次に、協議事項のほうに参ります。

1つ目の唐津幼稚園のあり方について、説明をお願いします。

○教育部長（保利守男君）

唐津幼稚園のあり方についてでございます。本日お手元にお配りしている資料をご覧ください。

本日午後から総合教育会議が開催されます。これに基づきまして、市長、教育長、教育委員の皆様方で協議をしていただきます。

この資料に基づいて、内容の説明をいたします。

まず、1枚目でございます。

唐津幼稚園のあり方について、今までの経緯でございます。

平成30年6月の市議会定例会の一般質問で唐津幼稚園を今後どうやっていくのか、存続、廃園、民営化等を何年度までにどうしていくのか、今年度中に決めたいと答弁をいたしているところでございます。

次に、第1回唐津市総合教育会議の内容でございます。平成30年の8月25日に開催されました。

この中では、このままの運営で存続するのか、今後のニーズに対応し、民営化、また廃園するのか、今年度中に方向性を出すということで、再度、年明けて総合教育会議で検討しましょうということになったところでございます。

次の2枚目をお願いいたします。

教育委員会の検討結果でございます。

まず、存続についての検討の内容でございます。

今年度、教育委員会事務局と関係部署、これは主に保健福祉部、子育て支援とか障害者支援でございます。それと、多方面から協議をし、総合的に検討した結果、今の状況では存続は困難であると結論づけたところでございます。

その理由でございますが、まず、保護者のニーズの変化でございます。

現在、保護者のニーズの多くは認定こども園での保育を望んでいます。しかし、現在の唐津幼稚園を取り巻く環境や体制、また、市の財政状況では、公立の認定こども園への移行を目指すとしても、現実的にバスの送迎、給食の提供、預かり保育の実施などは難しい状況でございます。

次に、園児数の変化でございます。

来年度の入園希望者は現在5名であり、総園児数も来年度は27名となり、適正な教育活動が実施できる園児数とは言えない状況になります。また、2019年10月から施行される国の幼保無償化が実施されれば、ますます認定こども園への希望者が増え、唐津幼稚園への入園希望者が減少することが想定できます。

このような状況と、ここには書いておりませんが、他市の状況、例え

ば武雄市の場合は、周りの私立の幼稚園等が充実しているので廃園となっていて
るところでございます。そのほかは、こども園を目指したり、民営化を目指し
たりしている状況でございます。

下段のほうです。今の園児数を書いております。

3歳児、4歳児、5歳児の人数です。

平成30年度につきましては、現在、3歳児が10人、4歳児13人、5歳
児27人の計50名でございます。

平成31年度になりますと、3歳児が4人、4歳児が11人、5歳児が12
人の計27名となる予定でございます。比較しますと、全体で23名の減少と
なります。

このようなところを鑑み、以上、検討の結果、公立としては期限を決めて、
民営化に向けて利活用を進めるとの方向で参りたいと思っております。

現在、在籍している園児の扱いについてでございますけれども、平成31年
度園児募集は平成30年の11月に済んでおりますけれども、5名です。内訳
は3歳児が4名、4歳児が1名、新たに入園予定でございます。

次に、平成32年度園児募集については、5歳児、4歳児のみ募集をする予
定とします。平成33年度園児募集につきましては、5歳児のみ募集とします。
これで平成33年度、年度末に5歳児、全ての園児が卒園という形になります。

次のページをお願いいたします。

次に、民営化としての活用についてでございます。

現在の保護者のニーズを考えると、幼稚園ではなく、認定こども園が考えら
れます。認定こども園にするには、3号認定児、これはゼロ歳から2歳児です
が、この保育室、トイレや給食室の整備、並びに園児の安全確保のため、送迎
バスの駐車場の確保等も必要であると考えられます。

ほかにも様々な条件がございますが、認定こども園として公募による利活用
を進めていくこととなります。

今の公立としての役割、公立として手放す時期に来ているのではないか。ま
た、唐津幼稚園の教育の継承を民営化によってできないかというところで探っ
ていくというような方法でございます。

次に、幼児教育の充実についてでございます。

認定こども園における幼児教育については、基本的に、保健福祉部の管轄となります。小学校への円滑な接続のためには、教育委員会と保健福祉部の密接な連携が必要とされます。

これまで学校教育課主催で実施してきた幼・保・小連携事業の内容を更に充実させ、教育の質が落ちないように計画をしているところでございます。

次のページをお願いいたします。

課題として、特別支援教育、障がい者教育の充実についてでございます。

現在、障がい者支援課においてアドバイザーを配置しています。これは月2回、半日配置しまして、幼稚園、保育園の巡回等で発達障がいを含めた相談業務を実施しています。また、受け入れ園の紹介、療育施設の紹介などを行っています。

平成31年度は、フルタイムの臨床心理士による巡回相談により機能強化を図るべく、予算計上されてあるところでございます。

現場レベルでの保育士の発達障がい児の対応の悩みに対応するために、学校教育課主催で実施している幼・保・小連携事業において、全市的なインクルーシブ教育等の研修を更に充実させているところでございます。

この中身で本日の総合教育会議での協議を計画しているところでございます。

説明は以上でございます。

○教育長（栗原宣康君）

本日の13時30分から総合教育会議の予定ですがけれども、第1回の会議でも、この中身については御協議をいただいたところですがけれども、先程の提案について御意見や質問などありましたらお願いいたします。

○教育委員（森田 淳君）

この資料のまま、総合教育会議での協議資料として使用するということですか。

○教育長（栗原宣康君）

そのように考えています。

○教育委員（富永祐司君）

このままということは、例えば、昼からの会議の中で教育委員の意見がばらばらでもいいのでしょうか。

○教育部長（保利守男君）

そうですね、教育委員会の意見を聞いて、市長も今回、具体的な方向性を示すべきではないかということ、前回の夏の会議で言われております。

ちなみに夏の会議の時点では、唐津幼稚園は存続してほしいが、このままの運営で無理やり存続させていけば閉園の危機を迎える状況にあると。歴史ある幼稚園であるので、閉園とならないよう適切な時期に民間移譲していくのが一番よいのではないかと考えるとの御意見が、森田委員でございます。

また、富永委員につきましては、幼稚園として100年の伝統を持っているというのは民間になっても続いていくし、そのような伝統的なものがあるのは唐津市にとってもよいことであるという御意見でした。

坂本委員は、唐津幼稚園の周辺には多くの民間の幼稚園もあって、サービスも充実している。インクルーシブ教育を掲げて運営していくことになると、今でも要支援者の割合が高くなっているのに、更に増えていくことに対して適切に対応できるのかという問題もある。唐津幼稚園という名前だけでも残して民間移譲する方法もあるという御意見でした。

また、宮崎委員は、私立幼稚園を断られて唐津幼稚園に来られたお子さんもいらっしゃる。そういうお子さんは減りはしないと思う。その保護者の方が心配ないような対応をしなければならないのではないかと御意見でした。

教育長は、保護者の方の就労率が高くなってきていることへの対応の難しさや、唐津幼稚園を存続していくとなった場合、そこから先の唐津幼稚園と私立幼稚園との関係性などの課題があるとの御意見でした。

市長は、唐津幼稚園のあり方について、今年度中に方向性は出さなければいけない。このままの運営で存続するか、今後のニーズに対応できるような形で民営化するのか、廃園とするのか、また、待機児童の問題も含めて検討していき、年明けまでには方向性をしっかり整理しなければならないとの御意見でした。

このようところで、再度、今回の総合教育会議に幼稚園のあり方について、

今、御説明した中で、方向性と何年度までにどうするのかという目処を模索していこうと。来年度の幼稚園の募集に応募してきたのは5名ですけれども、3歳児、4歳児を含めて27名になると。現在は50名、その前の年も50名前後です。48名、49名と続いてきましたけれども、現在の状況、また、幼児教育・保育の無償化、これが来年度の10月から始まります。

子ども・子育て支援の新制度が平成27年4月からなっていますけれども、やはりこども園化なり、0歳児から2歳児までの保育等も含めていかないと、なかなか社会のニーズ、保護者のニーズ等にマッチしていないのではないかと。というようなことがあります。また、以前から言われていました財政的な問題ですね。負担がどれくらいあるのか、保育料は人数に応じて、また所得に応じていろいろですけれども、それがなくなってくると、今まで交付税措置等で補填はあっているんですけれども、財政的には厳しいものがあると。そういうところで、もう廃園しかないんじゃないかという議会での質問もありましたが、民営化を目指すというふうな方向もあると。存続というのは、今の現状ではマッチしていないというところでございます。

○教育長（栗原宣康君）

第1回の報告では、大体話の中身では、総合教育会議の中で教育委員さん方はそれぞれの御意見も出していただきながら、大体同じような方向だったかなと思っています。

また、この会議で全てを決めてしまうということでもありませんけれども、方向性を示していこうということですね。

○教育委員（富永祐司君）

方向性を決定づけるのはどこになるんですか。

○教育部長（保利守男君）

最終的には教育委員会になります。

○教育委員（富永祐司君）

例えば、厳木幼稚園も唐津市立ですよ。私はずっと教育委員として在籍していますけど、厳木幼稚園のときはこんな協議はしていなかった記憶ですけどね。

だから巖木幼稚園の場合はどういう経緯でどうなったのか。巖木幼稚園と唐津幼稚園の決定が全然違うかなという感じですね。同じ市立幼稚園なのに。

○教育副部長（栗原達也君）

巖木の場合は唐津市立の幼稚園と保育所ですね。両方ともありまして。

○教育委員（富永祐司君）

もともと巖木幼稚園はそうだったんですか。

○教育副部長（栗原達也君）

はい。今度は民間になるんですけれども、2つの保育所と1つの幼稚園が1つの認定こども園になったということで、所管は保健福祉部のほうになっておりますので、保健福祉部の主導でした。今回は唐津幼稚園で、教育委員会所管の単独の案件でもございますし、この唐津幼稚園のあり方、方向性というのは教育委員会のほうで決定すべき事項ということで、大筋の方向性というのは同じ統一の意見として持っていて、今回の第2回の総合教育会議には臨みたいということをお願いしたいと思っております。

○教育長（栗原宣康君）

保健福祉部のほうがまずかったのかもしれませんが。前回のときは。

○教育委員（富永祐司君）

ああ、巖木のときはですね。

○教育委員（坂本恭子君）

唐津幼稚園の現在いらっしゃる保護者の方たちも薄々はこの人数的なものを分かってあるのですか。

○幼稚園長（加茂律子君）

来年度の入園希望者は5名ですという現状を伝えています。

○教育委員（坂本恭子君）

現状だけはですね。では、教育委員会での方向性を結論づけたということになっていきますけど、募集して、既に5名の園児の方が平成31年度4月に入園されるんですよ。その保護者の方たちにもある程度の説明は要りますよね。そのときにはもう決定していなくてはいけないということですよ。

○教育副部長（栗原達也君）

保護者の方と、OB会と、そこには教育総合会議のときに説明はしたいと思っております。

○教育委員（坂本恭子君）

そうですね。それはすべきですね。

○教育委員（富永祐司君）

さっきの説明では、段階的に年度で新たな募集は、もうしないということですね。

○教育副部長（栗原達也君）

来年度入学する人の同年以上しかしません。

○教育委員（富永祐司君）

そういう募集の仕方も、この教育委員会の中で決めるのですか。そのような決定権というのはどうなるのですか。幼稚園側で決めるのですか。私どもにそういう決定権があるのですか。

○教育部長（保利守男君）

決定するのは教育委員会です。

○教育委員（富永祐司君）

今日のこの会議の中ですか。

○教育部長（保利守男君）

はい。御意見がございましたように、保護者の方等、それは十分な説明をいたします。存続させてくださいなど、いろんな意見がございます。教育の中身、財政的なものだけではないんですけれども、どうしてもそういった入園者数とか、周りの社会情勢といいますか、国の施策、方針等ですね。子育て支援や無償化なども、民営化という方法で保育園等もどんどんと移行しておりますし、そのような中では、その検討はなかなか避けて通れないと思います。

○教育委員（富永祐司君）

そうですね。

○教育部長（保利守男君）

もうそういう時期にきています。

○教育委員（富永祐司君）

段階的に募集しないということは、もう終わるということですからね。

○教育部長（保利守男君）

もちろん、今の在園児は卒園までは当然みます。また、年度年度で4歳、5歳児とか、5歳児とか、また新たに募集はかけていきますけれども、そう多く入るかどうかというのは、ちょっと今の時点では分かりません。そうないのかなと、若干の増減ぐらいなのかなと考えております。

○教育委員（富永祐司君）

小・中学校の統廃合の中で、やはり少人数の学級、複式となったら、そういった教育の効果がないということで我々は閉校に移行してきましたけど、そういう面も唐津幼稚園にも当てはまる部分があるのかなという気はしてきております。

○教育委員（坂本恭子君）

いずれにしても、今、在園児の保護者の方や、新たに入園する保護者の方にも十分な説明をして、いつの間にかこうなっていたということがないようにはしていただきたいなと思いますね。

○巖木市民センター総務教育課長（草場忠治君）

すみません。ちょっとよろしいですか。

巖木市民センターの草場ですけど、巖木は来年4月から、今の3園が民営化になりますが、2ページにあるようなこういう募集制限をしていないんですね。そのまま受け入れをして、残る園児さんは4月から新しい認定こども園のほうに申し込みの手続をするという形をとられております。

仮にこういう募集制限をかけると、3歳児4名の方たちは最後の平成33年度はたった4人ということになりますので、教育環境としてはよくないと思われます。やはり募集制限はせず、平成33年度末で民間に移行するという形のほうがよろしいのではないかと思います。

○教育委員（森田 淳君）

今の意見は、よく分かります。この募集制限をかけた場合に、民間に移譲するのはどういう移行の仕方だったんですか。一旦園児をゼロにしてから新たに募集していくというやり方だったんですかね。

○教育副部長（栗原達也君）

唐津の園舎自体が認定こども園にそのまま使えないということがありまして。

○教育委員（森田 淳君）

だから、一旦止めてということですね。

○教育副部長（栗原達也君）

一旦止めておいて、それから、場合によっては建て替えの必要もあるかもしれませんが。いわゆるここに書いていますように、給食室がまずないといけませんし、0歳から2歳のトイレや、そういう保育室もないと。そして、考え方によっては、園庭とか駐車場を確保するためには園舎を2階建てにする必要も出てくるのではないかと。いろいろなケースが考えられまして、巖木の場合は新しく建ててからといことでだからできたわけで、この唐津幼稚園につきましては、今の園舎のところでということですので。

○教育委員（森田 淳君）

それでは、一旦募集を止めないといけないわけですね。

○教育副部長（栗原達也君）

タイムラグが出てくるのが1つということで、一旦ではないですけれども、それからまた、受け入れる事業者の方の意向等もあるのではないかとということで検討したところです。

○教育委員（森田 淳君）

もう一つ、いいですか。

はっきり言ったら、幼稚園ではなく、認定こども園じゃないと民営化できないような形ですよ。その場合、名称の問題なんですけど、私は、唐津幼稚園OBなので、唐津幼稚園という名前を残してほしいなとは思っていたんです。

認定こども園になった場合、唐津幼稚園という名前を認定こども園に付けることは、法律上大丈夫なのですか。認定こども園として次に民営化する場合、唐津幼稚園という名前が残るのかどうなのかという部分はどうなんでしょうか。

○教育部長（保利守男君）

そこは募集をして、引き受けてくださる事業者がそういうことで使えばということにはなりますが。

○教育委員（冨永祐司君）

使うか使わないかでしょうからね。

○教育委員（森田 淳君）

いや、法律上どうなのかという話ですよ。認定こども園にするのに唐津幼稚園という名前がいいのかどうかです。

○教育部長（保利守男君）

通常、〇〇幼稚園、〇〇こども園というようになっていますよね。

○教育委員（森田 淳君）

ああ、両方使ってあるんですか。並記ですか。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

並記してありますね。県に申請する訳ですが、申請上は、幼保連携型認定こども園となりますが、通称は認定こども園〇〇幼稚園となります。

○教育委員（森田 淳君）

名称はあまり法的には関係ないということですかね。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

はい。

○教育委員（森田 淳君）

それから、もう一つ、0歳児から2歳児、いわゆる3号認定児の待機児童というのが、今、非常に多いと思うんですよね。ただ、0歳児から2歳児を待機児童がいなくらいに整備するとなったら、相当な設備投資も人件費もかかってくると思います、ある議員さんに、待機でどこにも入るところがなく、非常に困っているお母さん方が、何名もいらっしゃるということを知ったんですよ。それを議員さんにお伺いしたら、設備を投資して、人を配置するようなことをするならば、はっきり言って、子どもがいるお母さん方にきっちりその分の金銭的な補償をしてあげたほうがよっぽど財政的にはいいという意見もあるみたいなんですよね。その辺が、0歳児から2歳児って1人についてどのくらいかかるのでしょうか。保育士1人で何名まで担当することができるのですか。2人とか3人ですか。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

年齢によって違いますが、0歳は1人の保育士で3人ですね。だんだん数が増えていきまして、1歳児、2歳児は6人です。

○教育委員（森田 淳君）

我々は教育委員ですので、0歳児から2歳児については、我々の管轄するところではないかもしれませんが、将来的な唐津市の財政面も教育面も考えて、0歳児から2歳児の環境をきちんと充実させていくのか、それともお母さん方の手当を上げたほうが子どもたちにとっても家庭にとってもいいのかというのは、保健福祉部と教育委員会、もちろん議会も含めて、きっちり話をしていたほうがいいんじゃないかなと思います。

国の施策は多分、働くお母さんを増やすために保育所を増やせという意見が強いと思うんですよ。しかしながら、本当はそれよりもお母さんに休んでいただいて、0歳から2歳ぐらいまでは、親がついて育てたほうがいいのかもしれないですよ。いいか悪いか、私もここではっきり言えませんが、他市がしているから唐津市もそれに倣うだけじゃなくて、唐津市は、少し違うやり方をしましたよということがあっても、そこで財政的な負担が余り変わらんとなら、そのような方法もあるのではないかという気がしますがね。

○教育委員（富永祐司君）

そっちがいいという人が増えたらパンクしますよ。

○教育委員（森田 淳君）

どっちですか。そっちというのは。

○教育委員（富永祐司君）

財政的に支援してもらおうほうです。

○教育委員（森田 淳君）

いや、だから、そこがですね……。

○教育委員（富永祐司君）

そういう支援があるなら、そっちがいいという人が増えたら。

○教育委員（森田 淳君）

だから、その財政を言っているんですよ。設備投資と人件費ですね。その辺を鑑みて、それと余り変わらないようだったら、余り変わらないというか、

財政的な負担が幾らできるのか。

○教育委員（冨永祐司君）

希望してもらえない人とももらえない人が出てくるでしょう。上限が決まっていますし。

○教育委員（森田 淳君）

いや、もちろんそうとも思うんですよ。だから、その辺の協議を、もっと深くしたほうがいいのではないかという気がするんですけどね。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

その辺は、保健福祉部の子育て支援課の部分になってきますよね。

○教育委員（森田 淳君）

そうですね。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

教育委員会ではなくて、政策会議の中で今の意見を反映していただき、0歳、1歳、2歳、その辺りをどうしていくのか。大事な時期に財政的な支援がいいのか、施設を作って支援したほうがいいのか話をしたほうがいいですね。

○教育委員（森田 淳君）

多分、両方選ばれる方がいらっしゃると思うんですけど、でも選択できるようにしたほうがいいのかなという気がするんですけどね。それがまた、その後の子どもの教育にとってどんな影響を及ぼすかというのもあるとかもしれませんけど。

すみません。ちょっと的外れな意見を言ってしまうまして。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

地方によってもいろいろ違いますもんね。国会なんかでは都会の議論で進んでいる感じがしますが、地方とはちょっと違うといいますか。

○教育委員（森田 淳君）

そう思うんですよ。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

待機児童についても、0歳児から2歳児について中心に進めるような気がするんですよね。

○教育委員（森田 淳君）

はい、私もそう思います。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

年長よりも下の0歳、1歳児のほうが多機児童が多いから、作れ作れと推進をしていますが、地方のほうは、まだ保育園にやりたくないと思って待機している人もいらっしゃる事実もあるんですよね。

○教育委員（森田 淳君）

だから、学校のこととか保育所のことに関しても、地方の意見ではなくて、やっぱりボリュームの多いところ、都会の意見だけが反映されているような気がします。だから、地方は地方のやり方というのを、唐津市もきっちり会議をしていただいて、方向性を示していただいて、本当にお母さんのため、子どものためになるような政策を打ち出していきたいなというふうに思います。

○教育長（栗原宣康君）

分かりました。少し前のところから整理していこうと思います。

巖木からさっきお話をいただいた件、巖木幼稚園、保育園の建て替えの状況と、唐津幼稚園の状況は異なっていて、そういった経緯を踏まなくてはならないのかなということで、年次的に考えているというところでの今の計画だということなんです。

ここでお伝えしておきますけれども、最終的に平成33年度末、卒園で子どもたちが一旦いなくなって、それから3ページの民営化についての活用を考えるということではございませんで、民営化については、今後、公募を早い段階でかけながら、この時期には円滑にいけるようなということで、できれば工事がそのときに始まるなどの話が進めばよいなということでのステップを考えているということでのこの計画であります。事務局、そういうことですよ。

○教育部長（保利守男君）

はい。

○教育長（栗原宣康君）

それから、先程、森田委員からお話があった件について、まず、唐津幼稚園として園と名前が残っていくのかということなんですけど、これも公募をかける

段階で検討する。或いは、そういうことでお受けいただくところが出てくるのかということを含めて公募を考えていくことになると思います。

それから、最後の件につきましては、保健福祉部等々市全体での協議で、また更に検討していくことを伝えていくということになるのかなと思っております。この幼稚園のあり方について、この中身でほかにございませんでしょうか。

○教育委員（富永祐司君）

この資料を、午後からの総合教育会議でも使われるんですか。

○教育長（栗原宣康君）

はい。

○教育委員（富永祐司君）

そしたら、この資料に、教育委員会の検討結果と書いてありますので、意見としてはこの結果に沿って私たちも言わなくてははいけませんよね。自分の個人的な意見や思いは言えませんよね。

○教育長（栗原宣康君）

ああ、この資料の、教育委員会の検討結果という文言ですね。

○教育委員（富永祐司君）

教育委員会の検討結果だから、教育委員会で検討した結果がこれだったら、これと違う意見を言うとは検討結果ではなくなってしまう。その辺はどうなるんですか。

○教育部長（保利守男君）

すみません。教育委員会事務局と保健福祉部との協議によって、制度の変化と申しますか、今の制度的なものという形でございますので、正しく言えば、教育委員会事務局内での検討結果で、最終的な方向性は定例教育委員会にかけて御審議していただくということです。

○教育委員（富永祐司君）

だけんが、ここで、私たちがそれで納得すれば教育委員会の結果でいいわけでしょう。

○教育長（栗原宣康君）

そこまで含めてですね。

○教育委員（富永祐司君）

だけん、その辺をちょっとお聞きしたかったんです。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

正確に言えば、現段階は事務局の提案ですね。これを基に、今ここで御協議していただいて、大体この方向でいきたいということで、市長ともレクチャーをしますので、これとは全然違う話になってしまうとおかしくなるなと思います。

○教育委員（坂本恭子君）

この資料を基にして、前段階の定例教育委員会で、こういった意見が出たということでもいいんじゃないですかね。この資料を基にして、こういうふうな意見が出てというところからお話を始めてもいいんじゃないかなと思いますけど。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

ここに文字にされていない部分もありますよね。行間の部分が。

○教育委員（坂本恭子君）

そうですね。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

その辺は意見を言っていていいと思うんですけど、これと違うような行間を入れてもらうと困るということになるかなとは思いますが。

○教育委員（坂本恭子君）

余あまりにもかけ離れた意見はですね。

○教育委員（富永祐司君）

あまりにかけ離れてもね。

○教育長（栗原宣康君）

この資料が全て検討結果になっていたからですね。

○学校教育課長（佐々木講吉君）

ここで、同意していただければ、総合教育会議には教育委員会の検討結果でもいいのかなとは思いますが。

○教育長（栗原宣康君）

概ね、これでいいでしょうか。

○教育委員（森田 淳君）

そうですね。

○教育長（栗原宣康君）

今まで御意見をいただいたものを基に作った資料ではあります。

○教育委員（森田 淳君）

存続という部分で、これ以外は結局どうしようもないですもんね。

○教育副部長（栗原達也君）

存続はできないというところでは、前回の総合教育会議の中でも教育委員さんの一致した認識であったということですね。

○教育委員（富永祐司君）

これを出して、昼からの総合教育会議で、市長からいろんな意見が出て、そういう考え方もある、そういうやり方もあるというものが見つければそれでもいいと思うけどね。

○教育副部長（栗原達也君）

総合教育会議が決定機関ではないので。

○教育委員（坂本恭子君）

先程、厳木市民センターの課長さんが言われた募集方法も、卒園時には少ない人数になってしまうというようなことも、園児募集の要項を変えるということもですね。

○教育委員（富永祐司君）

園児募集はするんでしょう。

○教育委員（坂本恭子君）

5歳児、4歳児のみとか、そうではなくて。

○教育委員（富永祐司君）

受け入れ先が決まっとかなくてははいけません。

○教育委員（森田 淳君）

そうですね。

○教育長（栗原宣康君）

公募をかけて、民営化への引き継ぎができれば、そういったことも起こり得

るかもしれませんが、ひとまず今考えられるのは、こういうことを最低考えとかななくては進めないだろうということですね。

○教育副部長（栗原達也君）

施設がそのまま使えるかというのが一番問題ですね。

○教育委員（森田 淳君）

公募をかけて、既に唐津市内に、認定こども園をお持ちのところが唐津幼稚園を運営されるのであれば、多分園児を募集できると思うんですね。しばらく、そちらのほうに預かってもらうというような形をして、建て替えが終わったら移すというやり方も、もしかしたらできるとかもしれません。その辺はまた、そうってみないと分からないですよ。どういうところが公募に参加されるのか。

○教育委員（富永祐司君）

手を挙げる人がまずいないといけませんし。

○教育委員（森田 淳君）

もちろん、まずそこですよ。

○教育長（栗原宣康君）

ただ、今度入園される方や在園の方には、最悪こういう流れが予想されますということではお示しをしないといけないと思います。

このような形で総合教育会議に入りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○教育長（栗原宣康君）

それでは、ありがとうございました。

協議の2つ目に参りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○呼子市民センター総務教育課長（野上安国君）

呼子市民センターです。協議事項の2、呼子公民館解体跡地利用計画に伴う管理替えについてです。

25ページをお願いいたします。

概要について御説明申し上げます。呼子町の殿ノ浦にありました旧呼子中学校の跡地に新しく呼子公民館が整備され、間もなく完成になります。平成31年4月にそちらに移転するわけですが、これに伴い、現在の呼子公民館は、老

朽化が進んでおりますので、用途廃止後、解体する予定になっております。

解体後は、跡地につきましては、普通財産として呼子市民センター総務教育課へ管理替えということで行う予定にしております。

管理替えする土地の住所と面積ですが、唐津市呼子町呼子1945番地、面積が804平方メートルです。

管理替えの時期につきましては、平成31年度に解体工事終了後、平成32年4月を予定しております。

その後の手続としましては、今回、定例教育委員会で協議を行って、検討いただき、お認めいただければ、関係機関と調整の上、改めて定例教育委員会のほうへ議案として上げたいと思っております。

26ページ、27ページに配置図、計画図を添付しておりますので、御参照いただきたいと思います。

御協議のほど、よろしく願いいたします。

○教育長（栗原宣康君）

28ページをご覧ください。28ページに写真がございますが、上の写真が海岸通り側から見た写真ですね。それから、裏のほうは駐車場があって広く見えますけど、これは中通り側からの写真ですね。

何か御意見、御質問ございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

ありがとうございました。

それでは、協議事項を終了いたします。

報告事項に参ります。

教育長報告からです。別紙を用意させていただいております。

1月31日に福島ひまわり里親プロジェクトの理事長さんに、唐津においでいただきました。ひまわりの種を全国で引き取っていただき、それで育てたひまわりの種をまた福島に送り返すという事業なんですね。そのひまわりを見て、福島の方に元気になってもらおうという事業なんですけど、これは全国的に大きな事業として実施されています。

これまで浜玉中学校で生徒会を中心に実践されてきました。昨年は浜玉中学校の生徒が現地での大会に行って発表して、地元の方に大きな反響をいただいています。そのときの担当が盛田教諭といますが、西唐津中学校に転勤いたしましたけど、今度1年生を中心にまたこの事業を進めようとしています。その理事長さんが来られて、西唐津中学校の1年生に講話をしてくださったということがあって、こちらに御挨拶に見えたので御紹介したいと思います。

2日です。原子力防災訓練が行われました。

唐津市内の小・中学校は、学校の日程で屋内退避訓練を行いました。玄海みらい学園は、バス12台で小城市に避難いたしました。新聞にも載っておりますけれども、駐車場にバスが入らなくて大変混雑したという報告でした。

向島の島民の方、50数名、全島民避難ということで、市役所の人も行っ、島民と一緒に避難をなさったようです。私は、星賀に海上自衛隊の船に乗ってこられるところや、神集島港で帰ってこられるところに行ってきましたけれども、実際にやってみると、島の方は自分の船で逃げたほうが早いというような話をなさっていたというようなこともあったり、バスのことなど、実際にいろいろな課題が見えてきました。課題を見つけるための、避難訓練でもあったんだと改めて思ったところです。

8日、唐津中央ロータリークラブの創立25周年記念事業として、唐津市内の小・中学校にテント8張を寄贈いただきました。事務の共同実施グループが、8グループありますけど、そこに1張りずつ、二十数万円ぐらいの立派なテントをいただきました。不足していたので、大変ありがたい寄贈でした。

9日土曜日は、海洋サミットが東京大学の安田講堂で行われましたけど、現在、大志小学校で海洋教育に取り組んでいる5年生が3名だったと思いますが、発表しに行きました。

岩崎校長が、みらい学園で取り組まれていたことを、引き続き大志小学校でもやってもらっております。子どもたちはとてもよい経験をしたと思っています。

12日、巖木高等学校の地域教育連絡会議に出席いたしました。全県枠の生徒が、昨年度28名入学していた1年生の様子ですが、大変頑張っています。

2、3人、学校に来れない子もいるようですが、ほとんどの子が元気に毎日登校しています。

幼保小中、高等学校の連携が巖木高校は行われていますが、地域との連携が進んでいます。簗木小学校から報告がありましたけど、巖木高校の生徒たちがとても優しく、いろんな活動を一緒にしてくれるので、巖木高校の生徒のことが大好きだそうです。巖木高校の生徒たちもとても楽しみにしていて、一緒に連携が進んでいると感じました。

進路希望調査、本年度第1回、第2回と昨年12月前に2回ありましたが、希望調査で希望者の数が増えています。今日、一般選抜入学試験の募集人員が発表になりましたけど、巖木高校の全県枠は40人の募集人員に対して45名希望があります。巖木高等学校が成果を上げて頑張っていることがその数字で分かるなと思って、ありがたく思ったことでした。

16日、唐津ボランティアガイド30周年記念式典に参加してきました。

30周年、平成元年の世界大会の前に、昭和63年12月にスタートした組織だそうです。ヨットの世界大会等々、いろいろな大会のサポートをこのボランティアガイドはなさっていますが、九州全体で、この規模の都市で世界大会等に他県のボランティアのサポートなく実施できているのは、この唐津しかないそうです。こんな話を来賓の方が御挨拶の中でされて、すばらしい活動をなさっているんだなということを改めて知りました。

19日、第2回の学力向上運営会議を行いました。

13名の委員の方は、指定校、推進校の校長先生方、西部教育事務所北部支所の森田指導主事というメンバーでこの会議を運営しておりますけど、全ての学校から児童・生徒の様子、教職員の充実した取り組みの報告がなされました。

課長から、最後に、ずっと以前のこの会議ではどうやって進めようか、子どもの実態や教職員の動きについて悩みを打ち明けるような会議の中身が多かったけれども、それぞれの学校が教職員の意欲の高まりや、実践の成果を発表されて、非常に充実した取り組みになってきたというまとめがあった会議でした。

20日、地震予知総合研究振興会から、小川小中学校にサッカーゴールポスト、ネットの寄贈がありました。昨年の夏休みに地震予知の計測器を小川小・

中学校の敷地に設置なさいました。そのとき、サッカーゴールを動かさないと、その器具が入れることができなかつたので、サッカーゴールを動かしたんですが、それを見た振興会の方が、サッカーのゴールポストとネットを、もう古くなっているので私たちが寄贈しましょうと言ってくださいました。サッカーゴールだけで四十数万円です。そして、ネット。アルミ製の立派なサッカーゴールとネットです。しかも、島ですので前のサッカーゴールの撤去に関する運搬費用がかかるんですよ。撤去費用、運搬費用がかかります。それも全部、この研究振興会が見てくださって、昨日、目録をいただいて、教育委員会のほうから感謝状を贈呈させていただきましたので、御紹介したいと思って報告させていただきました。

以上です。

教育長報告に何かございますか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

それでは、先に参ります。

各課報告事項です。生涯学習文化財課からお願いします。

○教育副部長（中尾修二君）

生涯学習文化財課でございます。29ページをお願いいたします。

消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例についてでございます。これは、今年10月消費税率が上がることに伴いまして、財務部で一括して、唐津市が持っている施設の使用料を上げるという条例でございます。個別に上げるというよりも、ここに書いておりますが、消費税及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例ということで、一括して上がっております。

31ページに一覧表がございますのでご覧ください。生涯学習文化財課が担当しております公民館、都市コミュニティセンター、厳木コミュニティセンター、星賀わんぱくハウス、青年の家と、近代図書館も美術ホールの使用料を設定しておりますので、近代図書館も含めまして、消費税率が上がることに伴いまして使用料が上がります。

33ページ、新旧対照表を付けております。

例えば、公民館は、現行2,080円が10%になるんだったら2,100円だろうということですが、これが微妙に違います。なぜ、違うのかというと、消費税が5%時代の原価率といいますか、税がかからないところに10%を掛けます。つまり、消費税が5%のとき、公民館使用料は2,030円でした。3%から5%に上がったときに上げていなくて、2,030円だったということです。

ですから、2,030円を1.05で割り戻しまして、それに今回1.1を掛けるとこの金額になるということです。つまり、各課で8%、5%時代に各条例で消費税分上げているところ、上げていないところ、いろいろあったものですから、5%のときを基準にして改正をしようということで、財政のほうから金額の提示があって条例改正になっております。

ちなみに施行日は、消費税が10月に上がる予定ですので、消費税が上がったときに追隨して施行するということになろうかと思えます。

以上です。

○教育委員（富永祐司君）

使用料を前納することがありますよね。そのときはどうなりますか。

○教育副部長（中尾修二君）

経過措置のことですかね。10月分を9月に払ったときですね。

○教育総務課係長（神田 仁君）

施行日以後の使用に係る料金について適用されますので、使う日の使用料になります。

○教育委員（富永祐司君）

使う日よっての使用料ですね。

○教育長（栗原宣康君）

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

では、次の報告事項に参ります。

佐賀県市町教育委員会連合会役員組織の改変について、教育総務課からお願いいたします。

○教育副部長（栗原達也君）

教育総務課でございます。佐賀県市町教育委員会連合会役員組織の改変についてでございます。

41ページをお願いいたします。

この役員改変につきましては、9月定例教育委員会で、佐賀県市町教育委員会連合会の会長、副会長の構成について協議をいただいた経緯がございます。そして、11月定例教育委員会におきまして、佐賀県市町教育委員会連合会役員組織の構成が決定しましたということで、お知らせをしているところです。

会長は教育長から1名、副会長は教育長会から1名、教育委員から2名という決定がなされていたということでお知らせをしていたところでございますけれども、今回、正式に文書が参りました。それが、41ページの資料でございますけれども、平成31年1月24日の教委連臨時役員会において決定をされております。それで、各市町教育委員の皆様にご周知をお願いいたしますということで、この文書が来ているところでございます。

42ページをお願いいたします。

42ページにつきましては、県の市町教育長会連合会の役員一覧が掲載されております。

43ページ、44ページに、佐賀県市町教育委員会連合会の規約を載せています。

また、新旧対照表を45ページに記載しております。

46ページにつきましては、平成31年度佐賀県市町教育委員会連合会の役員一覧となっております。富永委員さんが常任理事になっていらっしゃいます。

それと、47ページにつきましては、市町教育委員会連合会・佐賀県市町教育長会連合会役職担当の地区割一覧表を掲載しております。

説明としては以上でございます。

○教育長（栗原宣康君）

この46ページの組織についてどうかというのを以前、御検討いただいております。

りましたので、佐賀県市町教育委員会連合会から通知が来たので、御報告をさせていただきますところでは。

富永委員さん、何か付け加えはございますか。

○教育委員（富永祐司君）

今、事務局から報告がありましたように、連合会の会長を教育長にお願いするということになりました。それで、副会長は3名ですけど、1人が教育長会から人選されて、残り2人を教育委員の理事の中から挙げるということで、その改正だけですね。

それで、任期は平成30年度、31年度で2年でしたけど、今回変わりましたので、単年度、平成30年度の役員が代わって、平成31年度から新しい輪番制となります。

○教育長（栗原宣康君）

今まで永田会長さんという職務代行者が杉崎士郎会長のところにおられて、杉崎会長が前のページの42ページの教育長会の会長だったんですね。こっちを教育長さんということになったので、杉崎会長が来られて、教育長会の会長は武雄の浦郷教育長がなれるということになりました。

そして、副会長さん1名が教育長、2名が教育委員さんからということで、岡委員と上野委員になっていただいているということです。

これまで、この組織は5月の総会が終わってからの交代でしたけれども、業務上、非常に差し支えがあるということで、これを決定して、今度は平成31年の4月1日から代わりましょうということで協議をなさっているということで通知が来ました。

それでは、先のほうに参りたいと思います。

近代図書館から、お願いします。

○近代図書館長（船岡広子君）

近代図書館です。唐津市所蔵品展「秋玲二さん、水辺のさんぽ」ですが、唐津市刀町の出身で、洋画家と漫画家もされていましたが、秋玲二さんの所蔵を40点ほど持っております。今回は美術ホールにおいて、3月9日から31日まで展示する予定ですので、御紹介いたします。

以上です。

○教育長（栗原宣康君）

ありがとうございました。

これまでの各課報告について何かございますか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

それでは、先に参ります。

共催及び後援について、教育総務課からお願いします。

○教育副部長（栗原達也君）

教育総務課でございます。共催及び後援についてということで、48ページをお願いいたします。

今回は、共催1件、後援13件、合計14件の共催及び後援が出ているところでございます。

行事名、主催者名、開催年月日等、詳細につきましては、一覧表をご覧くださいと思っております。

以上でございます。

○教育長（栗原宣康君）

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

それでは、教育委員会行事予定について教育総務課からお願いします。

○教育副部長（栗原達也君）

教育総務課です。2月21日木曜日から3月31日日曜日までの行事予定を掲載させていただいております。

詳細については、議案集の49ページをご覧ください。

以上です。

○教育長（栗原宣康君）

3月14日に唐津幼稚園と巖木幼稚園の卒園式がありますけど、市議会日程と間違いなくぶつかると思いますので、私も教育部長も出席ができませんので、

宮崎委員さん、冨永委員さん、よろしくお願ひいたします。

行事予定で、ほかに何かございますか。いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

それでは、また小・中学校の卒業式でお世話になりますが、よろしくお願ひいたします。

次回の定例教育委員会の日程を3月28日の14時で予定しております。御予定に入れていただければと思います。

ほかに、付議することはございませんか。

○教育副部長（栗原達也君）

すみません。

午後の総合教育会議ですけれども、幼稚園のあり方についてと唐津市学校給食センター整備基本計画について、この2つの議題を上げております。

給食センター整備基本計画の中で一部変更がございます。変更の内容といたしましては、整備期間と開設までの工程計画のところでございます。

以前は、平成31年度から基本設計、実施設計という計画で、平成35年に運用開始という計画をしておりましたけれども、今回、予算査定のほうで基本計画が1年おくれることになりました。

ただ、工事は2年間をとっておりましたけれども、1年半で工事ができるという目安がついておりますので、開設の時期としては変わりません。平成で言いますと35年の2学期から行いたいということで、その時期としては変わりませんが、そこが変更となっております。

それから、概算の事業費が、大まかな事業費を前回は上げざるを得なかったのですが、今回はもう少し精査して上げておりますので、建設工事等の額が若干上がっております。事業費の額が変わっておりますので、今回お配りしますが、その2点の内容が変わっておりますので、事前にお知らせしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○教育長（栗原宣康君）

今の件についてよろしくお願ひします。ほかにございませんか。よろしいで

すか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○教育長（栗原宣康君）

それでは、一旦、全体会としては、終了いたします。ありがとうございました。